資料6

令和8年度局区X方針　進捗状況について（令和8年5月～10月まで）

令和8年11月24日　財政・変革局市政変革推進室

1.『局区X方針』の概要

「これまで（現状）」から、何を変革する（トランスフォームする）のか
そのトランスフォームした姿（あるべき姿）を実現するために、
今年度の変革課題を明確にして、課題解決の取組みを定めたものが『X方針』

～各局区長等が、経営者目線で自律的な改革の方針を定めて組織内外に発信～

局区長による変革の推進力向上 や 局区の経営意識の向上を図る

局区長のリーダーシップの下、
変革の方針を作成・公開

〇〇局区X方針
- 使命
- 変革課題・目標
- R8取組み等



①自己点検
- 局区長のリーダーシップの発揮
- 新ビジョンを踏まえ、特に変革が必要な課題（変革課題）の洗いし
- 幹部職員の参画

②変革課題・目標等の設定
- 局区Ｘ方針の公表
- 市民への丁寧な発信
- 局区内職員との意識共有

課題解決に向けた
取組み

③Ｘ会議(進捗の公開)
- 見直しが困難な課題を可視化
- データ等を用いて客観的に分析

２．令和８年度の設計・全体スケジュール

３年目のアップデート　ー　局区Ｘ方針を軸にした変革の戦略的マネジメントへ　ー

昨年度の第４回Ｘ会議（1/30）での議論

①Ｂ・Ｃレベルの課題の精選
② 取組状況の定期的な把握（横串で点検）
　→副市長による取組状況の評価が必要
③ 停滞する課題の『進め方』の設計

共有事項を踏まえた、進捗把握等のアップデート

① 定期的な把握（Ｘ会議報告）を年度当初と年度途中の年２回実施
　『局区の自己点検』に加え『担当副市長による点検』を実施
② Ｒ７Ｘ方針については、担当副市長による取組結果の点検の際に
　Ｒ８Ｘ方針における主要課題や停滞課題の有無を局区と事前協議
③ ②で特定した停滞課題があれば、必要に応じて包括的な場で協議

全体スケジュール

👉５月、１１月の２回のＸ会議において、全体の進捗状況を定期把握

Ｒ８年度

★4月上旬～
R8X方針
・各局区R7振り返り，R8作成

作成～公表

★4月下旬～
R8X方針
・策定前副市長協議
R7結果の副市長点検
R8課題の精選
停滞課題の特定

★5/26
第1回X会議
・R8の流れ等を説明
・R8局区X方針の全体公表

★11月開催
のX会議
・X方針進捗状況の確認

進捗確認

Ｒ９年度

★年度当初
のX会議
・R8X方針の取組結果　公表

結果

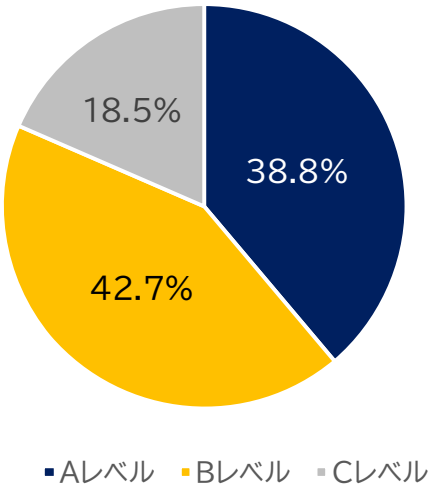
３．Ｒ８の課題設定状況（全体）

- 【Ａレベル】行政サービス現場改善にかかる課題
- 【Ｂレベル】課題の掘り起こしが済み、変革案が具体化しつつあるもの（途上のもの）
  課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- 【Ｃレベル】将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

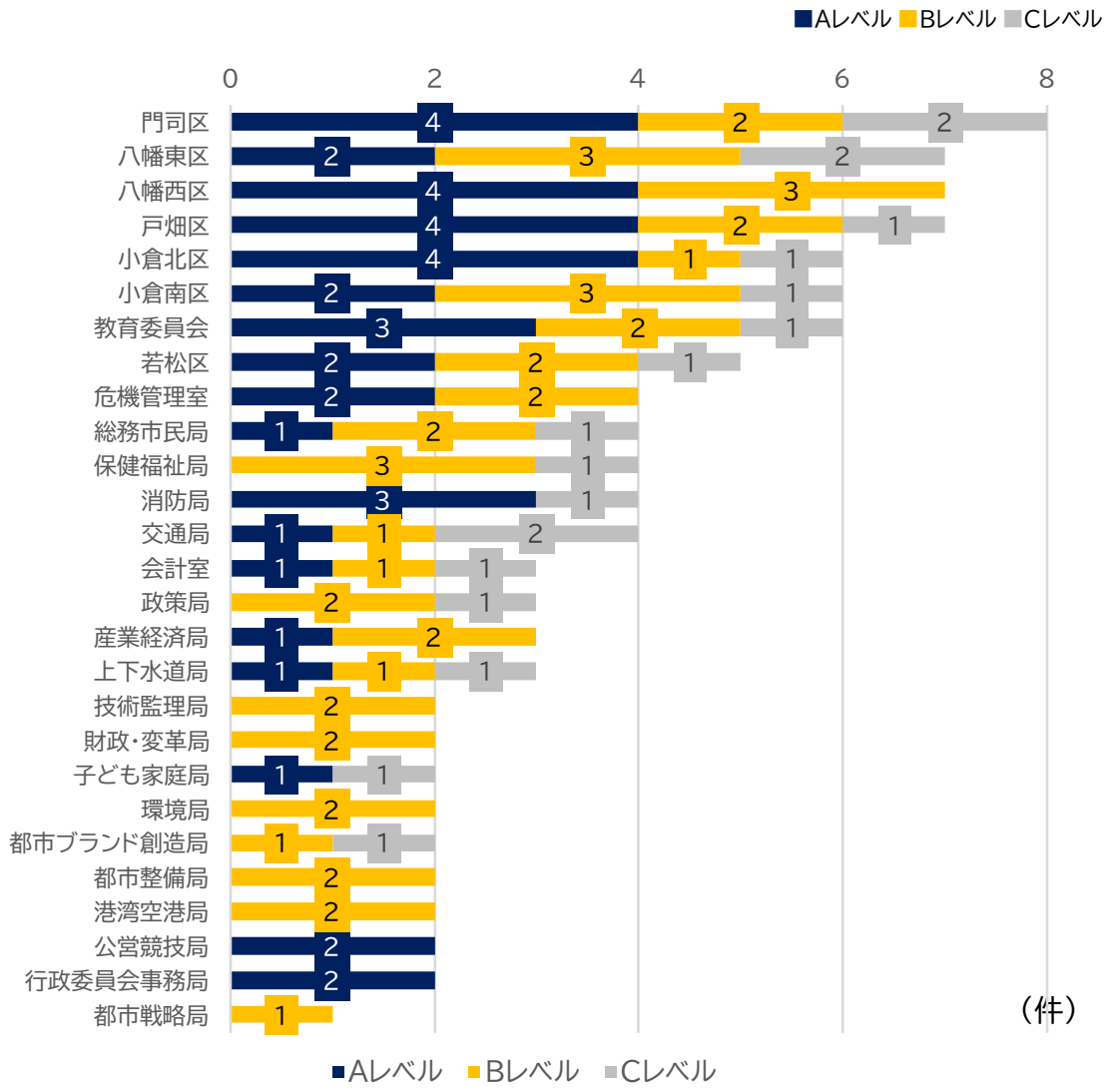
＜課題件数（全体）＞

課題領域	件数
Aレベル	40件
Bレベル	44件
Cレベル	19件
計	103件

ABCレベルの割合（全体）



＜各局区Ｘ方針の課題設定数＞



４．Ｒ８Ｘ方針の進捗確認（①各局区の自己点検結果）

■各局区において、A･B･Cレベルの各課題に対する取組状況を確認･点検

① 各課題の取組項目ごとに、第3四半期途中（R8.10月末）までの取組状況を「X方針」に追記

② 予定の取組内容（スケジュール含む）と実際の状況を照らし合わせ、必要に応じて修正･変更

③ 主要な局区においては上記①②の作業に先立ち担当副市長との事前ディスカッションを実施

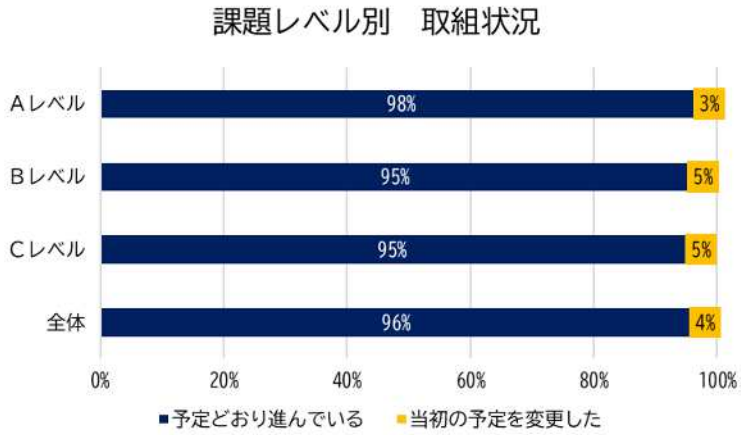
・第2四半期までの取組状況を各局区で自己点検した結果、予定の取組を実施している課題が、99件（全体の96%）、当初の予定を変更した課題が、4件（全体の4%）となっている。

・また、今回の確認により、X方針の取組内容等を修正･変更（軽微なものを含む）を行った課題は、9件あった。

【第３四半期途中までの取組状況（全体）】

取組の進捗状況	Aレベル	Bレベル	Cレベル	計
予定どおり進んでいる	39	42	18	99
当初の予定を変更した	1	2	1	4
計	**40**	**44**	**19**	**103**

※上記ほか、内容表現等の修正が９件



次頁（P6）に個別内容を掲載

４．Ｒ８Ｘ方針の進捗確認（①各局区の自己点検結果）

■当初の予定から取組内容等を変更した課題（4件）

・検討段階で判明した課題に対する対応や、より高い成果を狙った計画のアップデート等により適宜軌道修正している。

No.	局区名	課題番号	課題・課題に対する取組	今後の取組内容・スケジュールの変更状況
1	会計室	B1	■市民企業等の利便性向上につながる会計事務のＤＸ推進（デジタル化） ①電子請求の実現 ②公金収納のデジタル化 ③債権者登録（会計室）の電子化と業者登録（技術監理局）との統合	【②公金収納のデジタル化】 ・費用対効果を検証した結果、AIOCRを先行導入する方針とした。 ・一方、電子請求については、現時点で費用対効果に課題があることから、AI-OCRとの同時導入を見送り、令和11年度を目途に、電子請求の普及状況やシステムとの連携方式、導入・運用経費等を見極めながら、導入の可否や時期を判断していく。
2	環境局	B2	■市民の行動変容を生み出す施策構造への転換 ①ギラヴァンツ北九州と連携したSPLの推進（環境×スポーツ） ②ネイチャーポジティブ推進重点モデル地区事業（環境×観光、まちづくり） ③環境配慮型ライフスタイルへの転換に向けた広報啓発事業（プラットホーム） ④「北九州クリーンタウン」プロジェクト（まち美化） ⑤局内横断の検討・実行体制の仕組化	【③環境配慮型ライフスタイルへの転換に向けた広報啓発事業】 ・市民の持続的な行動変容をより深く引き出すため、単なるポイント普及や一時的な啓発に留めず、プラットフォームの構築や局内各施策との連動手法など、事業内容を戦略的に拡充・高度化した。これに伴い、当初の予定を一部変更し、より本質的な仕組みづくりへと計画を再構築した。
3	戸畑区	A1	■窓口業務の応援体制整備 ①サポーター職員の選定・養成 ②職員応援AXプロジェクト	【①サポーター職員の選定・養成】 ・サポーター職員の選定・養成や運用要件について、実現性分析を実施。窓口経験職員の確保が難しく、継続的なサポート体制の維持困難を理由に、より安定した行政サービスの提供となる取組みへと変更。
4	教育委員会	C1	■新たな時代の教育デザイン 市立小中学校における実践例や他都市事例の収集・分析 ①「みらい学校デザイン」を発表 ②モデルエリアの選定 ③「新たなキャリアデザイン」の検討	・施設一体型の小中一貫校の設置に取り組む構想として、「北九州市みらい学校デザイン」について、発表時期は当初の予定より若干遅れたものの（当初スケジュールを変更）、そのコンセプトや目指すべき学校像、モデルエリアの選定方法などについて、総合教育会議や議会等での議論も積み重ねながら着実に進めている。

４．Ｒ８Ｘ方針の進捗確認（②変革視点による進捗確認）

◎ 具体的な取組の実行段階にあるもの　＜変革視点：官民連携で取組みを実行＞

＜事例1＞【技術監理局】 Bレベル課題 ： 次世代のまちづくりを支える担い手育成と組織基盤の確立

➢ 背景・課題

建設業従事者の減少・高齢化　25年間で従事者は約34%減少
行政技術職員の人材確保も民間企業との競争が激化
建設後50年超の老朽化インフラの増加、災害復旧対応力の維持

➢ 目指す姿

道路や橋梁など都市インフラの適切な維持管理、老朽化対策の推進、災害時の迅速な復旧対応を実行し、市民の安全・安心な生活の基盤を維持。都市の魅力向上や地域経済の活性化を創出

R8年度の取組み（一部）： 地元建設業の魅力発信強化
⇒ 官民連携によるプラットフォームを設置し、若手技術者プロジェクトチームで地元建設業の魅力発信方策を検討、プッシュ型情報発信を強化、

・公共工事を支える市内建設企業は、土木・建築系の高卒者・大卒者の採用が厳しい状況。
・官民・地元企業間の横の繋がりを強化する共創拠点を設置、 若手技術者で業界の魅力発信に取り組む。
・小中学生や普通科高校をターゲットに、将来の人材確保に向けたアプローチを開始。

まちづくりを支える建設業界の人材不足の問題に官民連携で取り組む

市内建設業１６団体×北九州市による共創拠点
官民連携プラットフォーム「Ｋ－ＭＩＲＡＩ－ＢＡＳＥ」設置

設立経緯：業界意見交換、包括連携協定を経て今年８月に正式設置

構成団体：市内建設業１６団体と北九州市が参画し、業界横断で連携

３つの柱：「建設業の魅力発信」「情報共有」「交流機会の創出」を展開



プラットフォーム下での具体的アプローチ
「若手技術者PT」の設置と小中学生向け魅力発信

若手PT結成：各団体推薦・建設アワード受賞者・市若手技術職員で構成

本格始動：１０月に第１回会議を開催し若手目線での魅力発信方策を検討

重点ターゲット：将来の職業選択に向け、小中学生へのプッシュ型発信を強化

今後の展開

Ｒ８年１２月に小学生を対象とした現場見学会を実施予定

４．Ｒ８Ｘ方針の進捗確認（②変革視点による進捗確認）

◎ 具体的な取組の実行段階にあるもの　＜変革視点：官民連携で取組みを実行＞

＜事例２＞【都市戦略局】 Bレベル課題 ： 将来にわたる公共交通の維持・確保

➢ 背景・課題

担い手不足
ニーズ多様化　路線バス減便・廃止、夜間タクシー配車不足

➢ 目指す姿

市内の交通空白を解消し、市民が日常の移動サービスを持続的に享受

R8年度の取組み（一部）：デジタル技術の導入による「交通DX」の推進
⇒ デジタル技術（交通DX）を活用した、需要特性に応じたタクシーの実証運行やAIを活用した新たな移動手段の実証運行を実施

・実証に先立ち、タクシー配車アプリ事業者等との連携により、アプリデータを分析し、市内の夜間の需給ギャップを可視化。
・タクシーの利用ニーズがある一方、運転手不足等により配車が追いついていない地域の内、特に需給ギャップが大きい「門司・門司港地域」を実証運行の対象地域として特定。
・タクシー事業者２社共同による乗合タクシー「ナイトシャトル」運行をR8年11月から実証事業として開始。
・官民連携の事業主体「交通空白解消等『北九州モデル』推進会議」による実証を通じて地域の需要を共有し民間による対応可能性など、持続可能な夜間の交通のあり方の検討につなげていく。

夜間タクシー不足の問題に官民連携で取り組む



●門司・門司港エリアの市民・飲食店の声
『夜間にタクシーがつかまらない、タクシーの配車を断られる』
『門司港での食事後も安心して帰宅したい』
●門司エリアでの実証内容
運行開始前（現状）
路線バス（ＪＲ門司駅発）の最終便
・藤松方面　：２２時１５分発
・戸ノ上方面：２２時５５分発
⇒ 以降の時間は移動手段が無くなる
運行開始後
・ＪＲ門司発 ①下馬寄・藤松方面 ②中二十町・戸ノ上方面
２２時～２４時台までの６便で対応
※ 門司港エリアにおいても３ルート・５便運行
●バス停留所をナイトシャトル便の降車場所として活用
●昼間の「おでかけ交通」の運行車両を、夜間時間帯に有効活用

4．Ｒ８Ｘ方針の進捗確認（②変革視点による進捗確認）

◎具体的な取組の実行段階にあるもの　＜変革視点：ユーザー目線で迅速に解決策に着手＞

＜事例3＞【若松区役所】 Cレベル課題 ： 若松北海岸の観光地化（遠見ヶ鼻の駐車場暫定整備）

➢ 背景・課題

観光地化に向けた受入れ基盤整備が不十分
- 夕日の名所「遠見ヶ鼻」等の観光スポット付近に来訪者用駐車場やトイレ、利便施設が不足
- 観光地化で路上・不法駐車やごみ等の環境悪化が懸念
- 開発可能とする規制緩和後も民間事業者は未進出

➢ 目指す姿

・駐車場等の受入環境の早期整備やホテル等の民間進出が進み、地元事業者間連携のにぎわいづくり・誘客が充実
・地域経済の活性化と観光地としての認知が広まることを目指す

R8年度の取組み： 観光地化に必要な施設整備の推進、若松北海岸の認知向上に向けたイベント開催
⇒ 地権者、福岡県（国定公園）等の関係者との協議調整のうえ、賃貸借による駐車場の供用開始、イベントの効果的な広報PR検討

・用地取得による本格整備を待たず、地権者からの土地賃借によって暫定駐車場を早期に整備
・地元事業者連携による周遊イベントを同時展開

駐車場不足にクイックに対応 地元協力で整備





R8. 10. 10
駐車場暫定オープン＆イベントとの連動
周遊企画に合わせた供用開始で相乗効果を創出

【土地賃借による観光客用駐車場の暫定整備】

関係者との迅速な調整	亀の井ホテルの協力により、従業員用駐車場を観光客用駐車場として活用
スピード感ある課題対応	時間を要する本格整備に先立ち、賃借方式で早期整備

【駐車場整備と連動した周遊イベントの開催】

周遊スタンプラリー	謎解き要素を新導入し、北海岸エリアの各施設へ回遊促進
多様な媒体で広域発信	県広報紙・芦屋町や岡垣町の小学校へのリーフレット配付・SNS広告を展開

今後の展開　駐車場利用状況の調査及び周辺施設への無断駐車・路上駐車の減少効果を検証

４．Ｒ８の各局B･Cレベルの性質分類（変革室分析）

【凡例】課題の分野：Ｒ８Ｘ方針の課題名【局名】
※ 市政変革推進室において独自に行った分析

● 政策部門である各局･室等が設定するB･Cレベルの課題39件について、「問題認識･解決の視点」での性質別で分類。
「より持続可能な事業構造や実施体制へのアップデート」が21件と、全体(39件)の半数以上を占めている。

■ユーザー視点による事業転換・進化（６件）

- 財務：市民企業等の利便性向上につながる会計事務のＤＸ推進【会計】
- 防災：避難行動要支援者に対する避難支援の仕組みづくり【危機】
- 契約工事：契約事務及び公共工事における設計業務のＤＸ推進【技監】
- 福祉：障害福祉サービスの質向上と持続可能な制度運営の構築【保福】
- 環境政策：市民の行動変容を生み出す施策構造への転換【環境】
- 住環境インフラ：水と緑がつなぐ河川・公園の新たな価値化【整備】

■市の成長を見据えた新しい切り口等による政策の再構築（１２件）

- 国際：海外でのプレゼンス向上及び外国人も住みやすいまちに向けた国際関連施策の実施【政策】
- 都市ビジョン：世界をリードするサステナブルシティの実現【政策】
- 税務：政策立案能力強化のための税務データオープン化【財変】
- 福祉：高齢者の健康寿命の延伸に向けた事業の再構築と取組の強化【保福】
- 子ども：多様化する保育ニーズへの対応【子家】
- 産業インフラ：中央卸売市場の整備【産経】
- 産業振興：北九州学術研究都市と北九州産業学術推進機構の機能強化【産経】
- 文化振興：政策連携団体のあり方（芸術文化振興財団の体制強化）【創造】
- 公共交通：将来にわたる公共交通の維持・確保【戦略】
- 物流インフラ：港の稼ぐ力の強化【港湾】
- 物流インフラ：空港の稼ぐ力の強化【港湾】
- 交通インフラ：持続可能な交通事業の構築【交通】

■より持続可能な事業構造や実施体制へのアップデート（２１件）

- ＤＸ：ＤＸ・ＡＩによる新しい窓口へのアップデート【政策】
- 会計：将来に向けた適正かつ効率的な会計事務の確保【会計】
- 人財戦略：次代を創る人財の確保、未来を動かす人財の育成【総市】
- 防災：新たな担い手の育成等による地域防災力の向上【危機】
- 消防：持続可能な消防体制の構築【消防】
- コミュニティ：地域コミュニティビジョンの推進【総市】
- 教育：地域クラブ活動の推進【教育】
- 教育：持続可能な給食提供体制のあり方【教育】
- 教育：新たな時代の教育デザイン【教育】
- 福祉子ども：北九州市福祉事業団（政策連携団体）の持続可能性の確保【保福】
- 地域福祉：地域コミュニティと地域福祉が相互に連携した支え合いの仕組みづくり【保福】
- ごみ：持続可能な社会の実現に必要なごみ処理体制のあり方の検討及び周辺自治体との連携について【環境】
- インフラマネジメント：次世代のまちづくりを支える担い手育成と組織基盤の確立【技監】
- アセットマネジメント：公共施設の価値向上と未利用市有地の商品化・流動化を原動力とした街のアップデート【財変】
- 公共ストック：市民活動拠点施設として相応しい生涯学習センターのあり方検討【総市】
- 公共ストック：持続可能な施設のあり方(文化・観光・ＭＩＣＥ・スポーツ)【創造】
- 公共ストック：市営住宅ストックの有効活用【整備】
- 生活インフラ：将来に渡る上下水道事業の健全経営やサービス水準維持の実現【水道】
- 生活インフラ：(株)ウォーターサービスとの連携強化【水道】
- 交通インフラ：貸切バスの営業拠点の拡大【交通】
- 交通インフラ：施設・車両の老朽化対応【交通】

6．今年度後半における進め方

X方針の進捗状況等に対する市政変革推進室の認識

- 各局区においては、局区長主導での課題設定や検討初期からの公表、現場の業務改善（Aレベル）の速やかな実行が定着するとともに、先送り・未着手の課題の掘り起こしや全庁での進捗管理について大きく前進してきた。
- 全体の状況では、「変革課題の洗い出し・課題設定」段階から、「官民連携や分野横断での連携等による方策の具体化・実行」段階へ重心を移すフェーズに入ってきている。
- 各局区が通常業務と変革課題の取組みを着実に並走するには、局区長が全体調整者として、課題を部横断で精選、優先順位を精査する必要がある。

上記認識を踏まえた
今年度後半での進め方

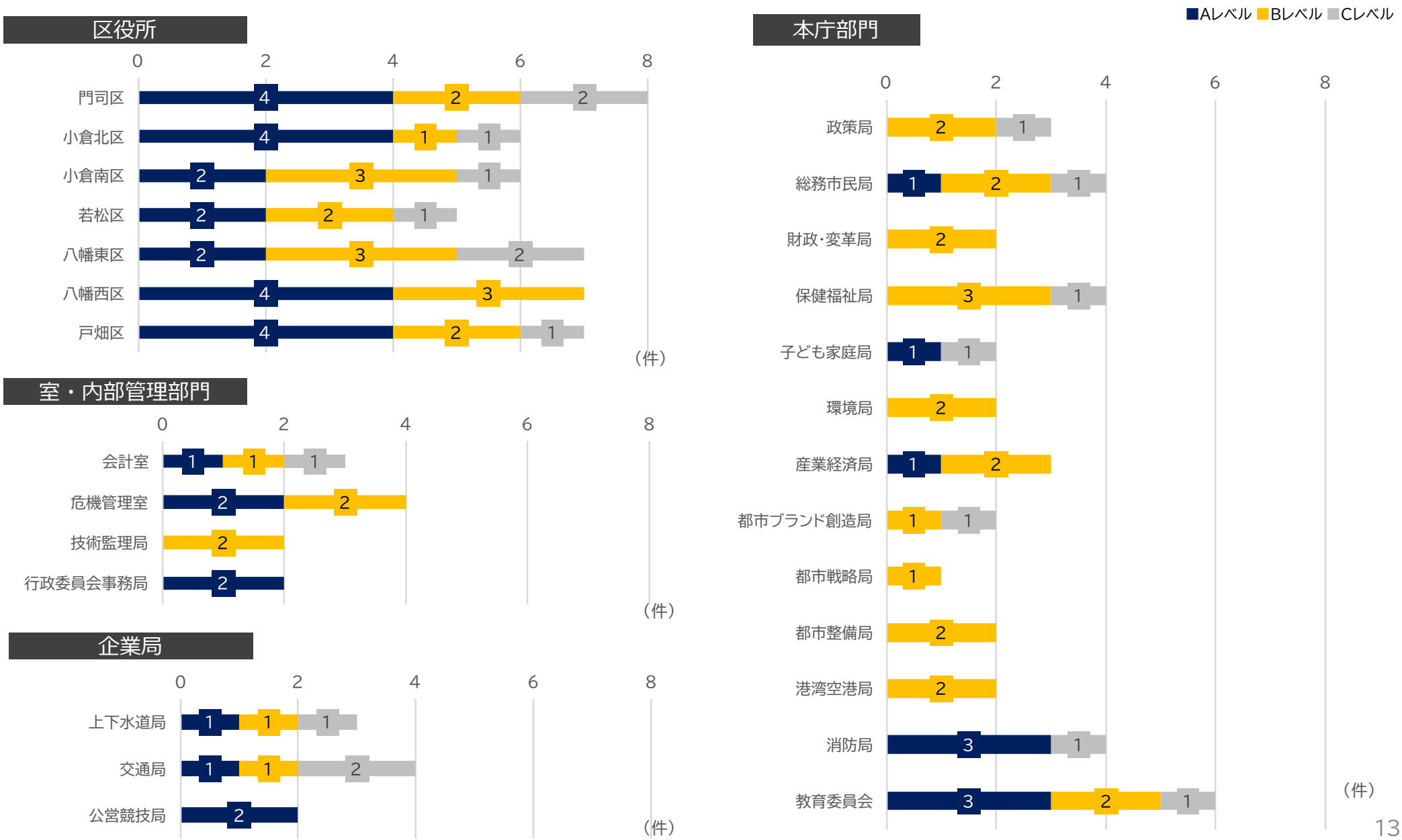
- 今年度後半は、各局区において、個別課題の到達状況や推進上のボトルネック（体制、リソース等）を振り返り、今後の進め方を局区長・幹部職員自らが整理する。
- 市政変革推進室は、主要な課題の進捗度、未達成（今後すべき）の取組みを把握するため、各局区長にヒアリングし、進捗を総括する。
- また、各局区長は、来年度に向けて、自走可能な課題は通常業務の執行に移行させ、変革課題の絞り込みや優先順位を内部で共有することにより、メリハリをつけて変革に取り組む環境づくりを進める。

参考資料

（参考）令和8年度各局区X方針の全体状況①

第１回Ｘ会議資料（別紙６）より

・本庁部門の局、室・内部管理部門、企業局の平均課題設定数が、３件前後であるのに対し、区役所は平均６．６件となっている。
・本庁部門の局では、Ａレベルの課題を設定していない局が多い（13局中、８局）。

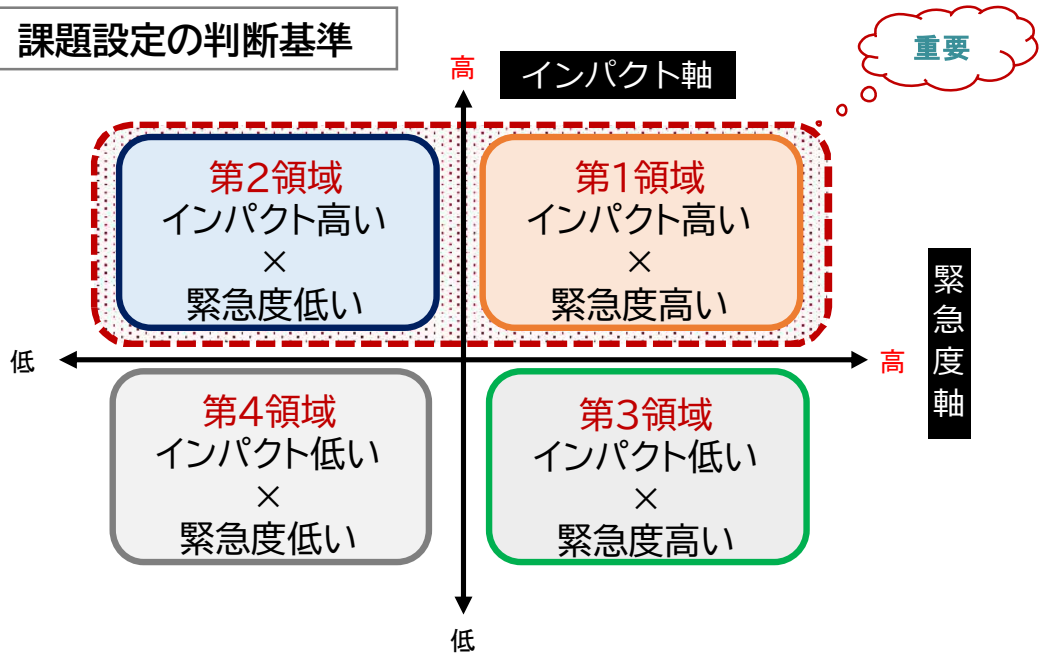


（参考）令和8年度各局区X方針の全体状況②

第１回Ｘ会議資料（別紙６）より

・課題総数（ＡＢＣレベル全数）　１０３件のうち、第１領域が５３件で約５２％を占め、次に『第２領域』が３３件で３２％、第３領域、第４領域の順となっている。
・ＡＢＣレベル別の内訳でみると、Ａレベル４０件では、第１領域が３５％、２・３領域が２６％前後ほどであるのに対し、Ｂレベル４４件、Ｃレベル１９件では、いずれも第１領域が５０％以上を占め、第４領域が０件となっている。

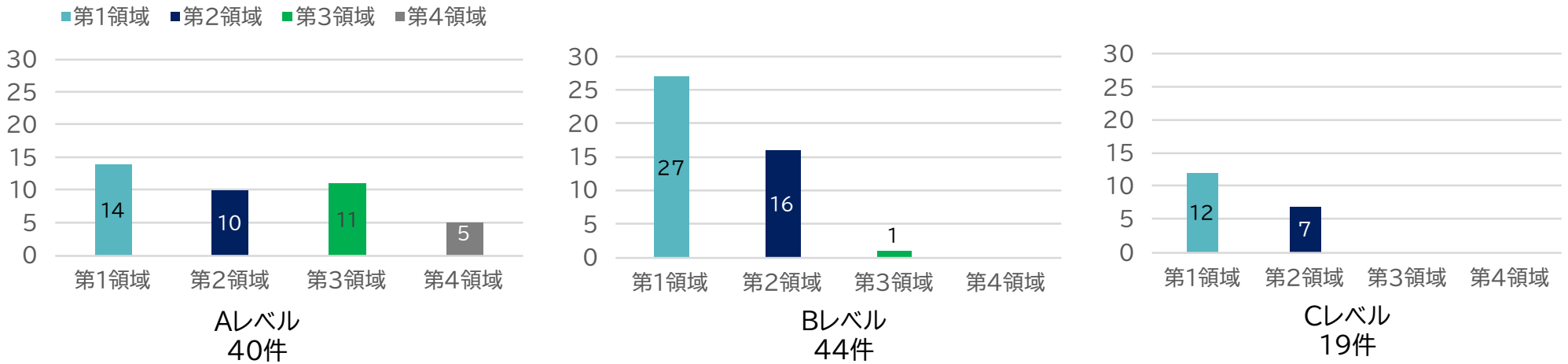
課題設定の判断基準



＜課題件数（全体）内訳＞

マトリクス領域	課題件数
【 第１領域 】 インパクト高い×緊急度高い	53件(51.5%)
【 第２領域 】 インパクト高い×緊急度低い	33件（32.0%）
【 第３領域 】 インパクト低い×緊急度高い	12件（11.6%）
【 第４領域 】 インパクト低い×緊急度低い	5件(4.9%)
計	103件

■ABCレベルでの内訳



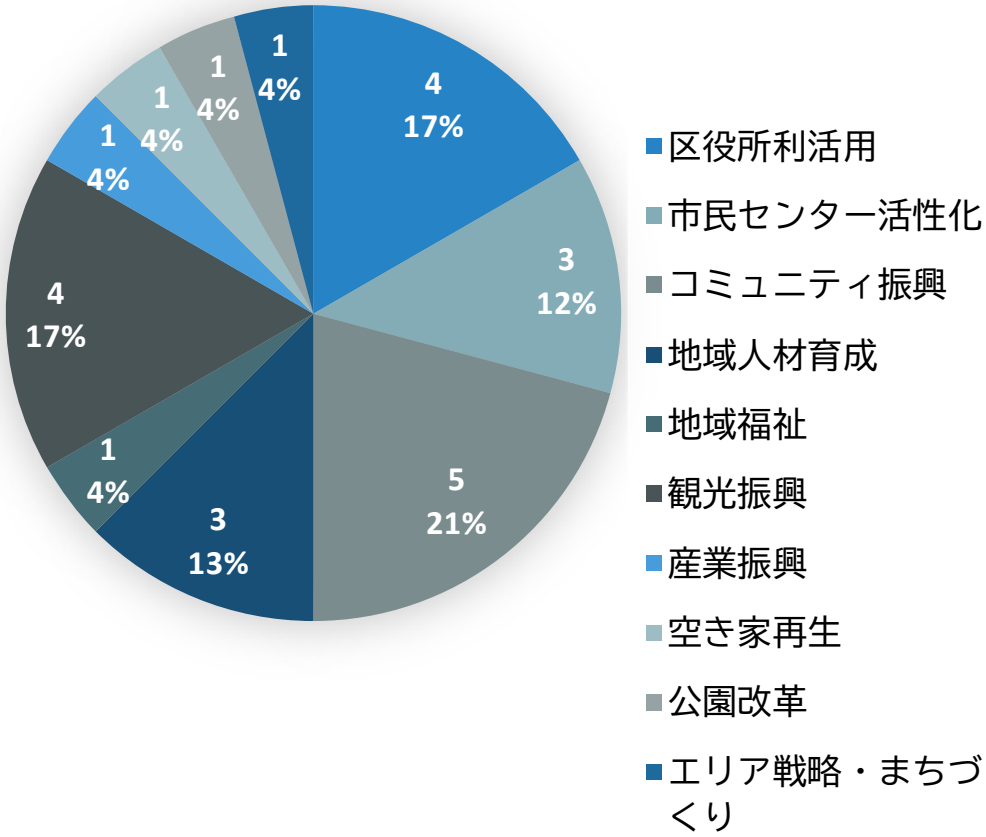
（参考）令和8年度各局区X方針（区X方針の状況）

第１回Ｘ会議資料（別紙６）より

- 区役所X方針では、B・Cレベルの課題分野の内訳をみると、区役所利活用・コミュニティ関連が16件・67%を占める一方で、観光や産業振興、空き家再生など、他の政策分野の課題も８件(約33%）設定している。
- 各区長において、区それぞれの特性や地域資源等を踏まえた、横断的な視点から課題を設定している。

区X方針における課題設定の状況

B・Cレベルの分野別内訳（７区２４件）



【区役所利活用・コミュニティ関連の課題例】

➢ 区役所利活用

・感動区役所・区役所空間改善（八幡東区/B）
・小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプランづくり（小倉北区/C）

➢ 市民センター活性化

・現役世代・子育て世代のニーズに合わせた柔軟な市民センターの運営（小倉南区/B）

➢ コミュニティ振興

・地域の実情に応じた地域づくりへのサポート（小倉北区/B）
・見える化と共有で動かす地域のお困りごと（八幡西区/B）

➢ 地域福祉

・持続可能な「地域ケア研究会」の取組（若松区/B）

【その他の分野の課題例】

➢ 観光振興

・「皿倉・河内・東田」リトリート＆アクティブ・エリア化（八幡幡東区/B）
・若松北海岸の観光地化（若松区/C）

➢ 産業振興

・マッチングではぐくむ定着のサイクル（産業人材の確保と定着）（八幡西区/B）

➢ 空き家再生

・古民家等を活用した民間主体のエリアマネジメント（門司区/B）

➢ エリア戦略・まちづくり

・「文教のまち」として選ばれるまちづくり（戸畑区/C）

（参考）R8X方針の進捗確認（具体的な取組の実行段階にあるもの①）

局区名	番号	課題名	目指す成果や課題の内容（抜粋）	具体的な実行が出来たもの（取組内容から抜粋）
会計室	B1	市民企業等の利便性向上につながる会計事務のＤＸ推進（デジタル化）	・公金のデジタル収納、電子請求の実現、債権者登録と業者登録の統合及び電子化により、家にいながら納付ができる、郵送しなくても申請ができるなど市民や企業等にとっての利便性の向上をはかる	【公金収納のデジタル化】 ・市税その他の公金について、キャッシュレスでの支払いが可能な「eL-QR付き納付書」の運用を開始。 ・市民へのわかりやすい周知を図るため、チラシの作成や広報動画の作成を進めている。
技術監理局	B1	次世代のまちづくりを支える担い手育成と組織基盤の確立	・次世代のまちづくりを支えるために、建設業界および行政技術職員の双方で深刻化する人材不足への対応が必要である。 ・さらに、インフラの老朽化が進行する中、持続可能な維持管理体制の構築が急務となっている。 ・このため、地元建設業の担い手確保に向けた魅力発信を強化するとともに、市役所技術職員の計画的な採用・育成及び専門性向上を図る。 ・さらに、インフラマネジメントの高度化により、限られた人員の中でも安全・安心な市民生活を将来にわたり維持できる組織基盤の確立を目指す。	【地元建設業の魅力発信の強化】 ・民間企業と連携し、人材確保をはじめとする建設業の諸課題を解決するため、8月に「北九州市の建設業の未来を創るプラットフォーム（K-MIRAI-BASE）」を設立。 ・官民・企業間の横のつながりを強化しながら、建設業界全体で魅力発信や担い手確保に取り組む体制を確立。
政策局	B2	ＤＸ・ＡＩによる新しい窓口へのアップデート	・市民が、24時間365日、身近な場所で住民サービスをオンラインで簡単・便利に利用できる（行かなくていい窓口） ・窓口で長時間待たずに、書類の記入負担を減らすなど、窓口サービスの快適さを実感できる（待たない、書かない窓口）	【スマらく区役所サービスプロジェクトの実施】 ・公共施設予約サービスの登録施設数の拡大（R8.3時点で45施設→R8.8月時点で105施設） ・誰もがデジタル化の恩恵を受けることができる取組の実施（市民センターでのデジタル活用講座や区役所等での移動型スマホ教室） ・各種証明書のコンビニ交付利用の促進に向けて、交付手数料を減額（３００円→１０円）

（参考）R8X方針の進捗確認（具体的な取組の実行段階にあるもの②）

局区名	番号	課題名	目指す成果や課題の内容（抜粋）	具体的な実行が出来たもの（取組内容から抜粋）
政策局	C1	世界をリードするサステナブルシティの実現	・「世界をリードするサステナブルシティ」を目指す戦略的アプローチの策定・実行を通じて、世界への発信力を強化し、環境と経済が両立した「サステナブル都市」のプレゼンスを高めることで、国内外からの投資を呼び込む ・市民が日常生活の中で「サステナブル」に取り組む機会を創出することで、意識・行動の変容を生み出す ・これにより、市民の幸福度を高めるとともに、世界をリードするサステナブルシティとして世界との繋がりを強化し、「まちの成長と市民の幸福の好循環」を創出する	【「Next Horizon Sustainable City」で掲げた概念を具現化するための３つのプロジェクト】 ・市民・企業・大学・市職員など多様な主体が連携し、新たな価値や仕組みの創出によって、地域の社会課題を解決するための共創・実践の場「リタラボ」の立ち上げ。 ・「サステナビリティ」をより身近に感じ、未来に向けた前向きな行動へとつながるきっかけを創出するため、ギラヴァンツ北九州の試合（11月25日・ホームゲーム）を舞台とした「サステナフェス」の開催に向けた準備に着手。
総務市民局	B1	地域コミュニティビジョンの推進	・地域コミュニティ持続可能性を高め、「共助がはたらきやすいまち」を目指し、 ①参加しやすい仕組みづくり ②団体間の連携促進 ③地域団体の負担軽減の方向性で取り組む。 これにより、 （１）担い手の確保 （２）役員等の負担軽減 （３）地域課題の解決力の向上を実感できるよう取り組んでいく	【庁内体制の構築】 ・R8.6に、「北九州市コミュニティアクション本部」を立ち上げ全庁的な推進体制を構築し、各プロジェクトの具体化に向けて検討・着手。 【参加しやすい仕組みづくり】 ・市民センターや生涯学習センターのサードプレイス機能を高める設備更新に着手しており、秋頃に利用開始を予定（まちの縁側・リビングプロジェクト） ・各区役所と連携して、モデル地区の検討を進めており、準備ができたモデル地区から順次着手していく段階（次の10年地域づくり先行モデルプロジェクト）
財政・変革局	B1	公共施設の価値向上と未利用市有地の商品化・流動化を原動力とした街のアップデート	・社会情勢や利用者ニーズの変化に応じ、常に利用者の利便性が高く、魅力的なサービスを提供する公共施設であり続ける。 ・最適な売却方法等の検討やまちづくり施策を包含した民間投資の呼び込みにより、都市の格の向上や財源の涵養に資するアセットの売却・利活用を進め、市民にとって魅力あるまちづくりを推進する。	・各局区が所管する未利用市有地の情報の集約及び一元化を行い、全体を把握 ・その情報を広く市民や事業者に認知・活用してもらうため、未利用市有地をブラウザで確認できるウェブマップを作成

（参考）R8X方針の進捗確認（具体的な取組の実行段階にあるもの③）

局区名	番号	課題名	目指す成果や課題の内容（抜粋）	具体的な実行が出来たもの（取組内容から抜粋）
保健 福祉局	B1	高齢者の健康寿命の延伸に向けた事業の再構築と取組の強化	・高齢者が、長年培われた経験を活かして活躍できるよう、活動に関する幅広い情報提供やマッチングなどの仕組みの構築。 ・高齢者が支える側として、社会の幅広い分野で活躍することを通じて、地域課題の解決や高齢化先進都市の価値を高める	【高齢者の活躍推進】 高齢者が社会の幅広い分野で活躍できるよう、既存事業の機能統合なども視野に入れた、高齢者の活躍推進を応援する仕組みの検討。 ・シニアの経験をまちの力へとつなぎ、活動推進を図る「ケイケン・タカラ事業」を開始。 ・地域で経験や知見を生かして活動するシニアを「ケイケンマイスター」として募集し、幅広い分野で活躍するシニアの認証を決定。
都市 戦略局	B1	将来にわたる公共交通の維持・確保	・市民が、持続的に日常生活に必要な移動サービスを享受することができるよう、今後、廃止・減便による交通空白の拡大が懸念される既存交通の維持、また、新たな移動サービスを組み合わせるなどにより、交通空白解消に向けた仕組みを構築する	【デジタル技術の導入による「交通DX」の推進】 多様化する移動ニーズに対応するため、ＡＩを活用した新たな移動手段の実証運行を実施するとともに、予約アプリのデータ等を分析し、タクシーの需給状況を把握し、適正な供給体制の構築に向けた実証運行を行う。 ・門司駅・門司港駅を起点とした、最終バス以降のナイトシャトル実証運行を開始（令和８年１１月～） ・八幡南地区におけるAIオンデマンド交通の実証運行を開始（令和８年１２月～）

（参考）R8X方針の進捗確認（具体的な取組の実行段階にあるもの④）

局区名	番号	課題名	目指す成果や課題の内容（抜粋）	具体的な実行が出来たもの（取組内容から抜粋）
港湾 空港局	B1	港の稼ぐ力の強化	・港湾を取り巻く社会情勢等の変化に対応し、北九州港の稼ぐ力を強化・維持していくため、安定的な収益基盤の確保とともに、維持管理費用の適正化を行うことで、持続可能な港湾運営を実現する	【未利用地等の売却】 ・民間ニーズを踏まえた土地利用を促進し、港湾エリアの魅力向上や賑わい創出を実現するために、観光・賑わいに資する施設の立地を促すための分区条例の改正や商業施設の面積要件緩和に関する告示の廃止及び指定について手続きを進めている。 【みなと緑地PPP】 ・民間事業者のニーズやアイデアを活かし、港湾施設・緑地の新たな利活用や賑わい創出を実現するために、市内１９箇所を対象とした「サウンディング調査」の実施を９月３０日に公表。民間事業者からのアイデアを募集し、令和９年２月末まで個別対話を実施する。
港湾 空港局	B2	空港の稼ぐ力の強化	・公共交通アクセスの維持・強化等を行い、旅客需要の維持や将来的な需要拡大を支える	【「朽網駅特急停車」の利用促進及びエアポートバスの待合環境改善】 ・空港アクセスの利便性を向上するために、アンケート調査による「案内不足」等の声を受け、空港のデジタルサイネージを活用し、時刻及び乗り継ぎ案内を開始。 ・エアポートバスの待合環境を改善するために、小倉駅及び空港において、整備を進めている。
門司区	B1	若者、地域、民間の連携推進による関門エリア活性化	・持続的に発展していくために、地域社会を支える「若者」が、地域の中で挑戦し、活躍し、そして将来にわたって定着していける環境づくりを行う ・門司区が抱える多様な地域課題に対応していくためには、従来の枠組みにとらわれない若者ならではの視点や発想を地域づくりに取り込み、その挑戦を地域住民や民間企業、行政など多様な主体が支え合う関係性へと転換していく	【地域課題の解決に向けた活動の支援・創出】 ・若者と地域が連携した地域課題解決プロジェクトに対する補助金を創設し、6件を採択。 現在、若者による新規プロジェクトが進行中。

（参考）R8X方針の進捗確認（具体的な取組の実行段階にあるもの⑤）

局区名	番号	課題名	目指す成果や課題の内容（抜粋）	具体的な実行が出来たもの（取組内容から抜粋）
若松区	C1	若松北海岸の観光地化	・若松北海岸の観光地化には、地元事業者同士が連携して、にぎわいづくりに取組む必要がある。 ・一方で市には、観光客を受け入れるための駐車場等の基盤整備及びホテル誘致等の環境整備について検討を進める必要がある。	【観光地化に必要な施設整備の推進】 ・若松北海岸の観光地化に向け、課題となっていた遠見ヶ鼻周辺の駐車場不足に対して、土地所有者や福岡県等との協議、自然公園法に基づく必要な手続きを経たうえで、土地を賃借し、令和8年10月10日から暫定供用を開始。 ・供用開始後は、駐車場の利用状況を把握するとともに、周辺施設への無断駐車や市道への路上駐車の減少など、その効果を検証していく。
教育委員会	B1	地域クラブ活動の推進	・子ども達が学校部活動と合わせて、スポーツ・文化芸術など様々な活動を経験できる「地域クラブ活動」を推進。 ・現在、約１２０の地域クラブが認定され、それぞれに特色ある活動を行っているが、今後も、生徒・保護者や地域と共通理解を持ちつつ、市内に地域クラブ活動を一層広げていくため、個々の取組の更なる進化をはかる。	【人材バンクの整備】 ・地域クラブにおける指導者不足の解消を図るため、人材バンクの整備を進めている。地域クラブと指導希望者とのマッチング体制を構築し、地域クラブ活動を支える人材の確保に取り組んでいる。 【プロスポーツ4チームによる「部活動地域展開応援団」の発足】 ・「学校頼みの活動から、まちぐるみで支える活動へ」の実現に向け、北九州市を本拠地とするプロスポーツ4チームによる「部活動地域展開応援団」を発足。
教育委員会	C1	新たな時代の教育デザイン	・社会環境が劇的に変化し、価値観やライフスタイルの多様化が進む中、新たな学校のカタチを目指し、「新たな時代の教育デザイン」を進めるが、この「新しい学校」の教育効果（メリット）を最大限活用するとともに、北九州市の特色も踏まえた未来志向の教育モデルを創出していく。	【新たなみらい学校デザインの実現】 ・「新たな時代の教育デザイン」を実現するため、施設一体型の小中一貫校の設置に取り組む構想として、「北九州市みらい学校デザイン」を令和8年７月の市長定例会見で発表。 ・「みらい学校デザイン」の全市的展開を見据え、全６２中学校区から１～２校区をモデルエリアとして選定し、令和１４年度を目途とした整備に向けて取り組んでいく。

（参考）R8各局区X方針課題一覧①

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
会計室	A	財務	会計事務の業務改善（簡素化・効率化）	（1）財務会計システムの機能アップ （2）会計事務のAI活用（AI会計室等）
	B	財務	市民企業等の利便性向上につながる会計事務のDX推進（デジタル化）	（1）デジタル収納の推進 （2）電子請求の導入 （3）債権者登録（会計室）の電子化と業者登録（技術監理局）の統合
	C	財務	将来に向けた適正かつ効率的な会計事務の確保	（1）会計事務への更なるAI活用 （2）調達から請求・支払いまでの一連の事務処理の実現
危機管理室	A	防災	危機管理センターの整備検討	基本構想の策定及び整備にかかる予算等の調整
		安全安心	客引き行為への対策	巡視体制の強化及び禁止区域の拡大等
	B	防災	新たな担い手の育成等による地域防災力の向上	（1）小中学生・高校生・大学生までの教育段階に応じた防災知識の普及 （2）学校と地域の連携による新たな担い手の仕組みづくり
		防災	避難行動要支援者に対する避難支援の仕組みづくり	実災害時における避難支援の検証
技術監理局	B	公共工事・人材育成	次世代のまちづくりを支える担い手育成と組織基盤の確立	（1）地元建設業の魅力発信強化 （2）市役所技術職員の確保・育成及び組織力向上 （3）公共施設マネジメント基本計画（社会インフラ版）見直し案作成と各個別施設計画への展開
		契約事務・公共工事	契約事務及び公共工事における設計業務のDX推進	（1）次期契約システム等の構築及び契約制度の見直し （2）設計業務システムの構築

（参考）R8各局区X方針課題一覧②

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
政策局	B	国際	海外でのプレゼンス向上及び外国人も住みやすいまちに向けた国際関連施策の実施	・国際戦略の策定 ・庁内の情報集約・活用・必要に応じた助言 ・海外に向けた情報発信の強化 ・外国人も住みやすいまちに向けた取り組み
		DX推進	DX・AIによる新しい窓口へのアップデート	・スマらく区役所サービスプロジェクトの実施
	C	政策	世界をリードするサステナブルシティの実現	・「Next Horizon Sustainable City」の具現化に向けた庁内の共創体制構築 ・具現化する3つのプロジェクトの推進
総務市民局	A	地域振興	地域の拠点として多世代が利用しやすいサステナブルな市民センターに向けた環境整備	予約システムの導入、日曜開館の拡大、運営体制の見直し検討
	B	地域振興	地域コミュニティビジョンの推進	「共助がはたらきやすいまち」を目指し、①参加しやすい仕組みづくり②団体間の連携促進③地域団体の負担軽減に取り組む。
		人財戦略	次代を創る人財の確保、未来を動かす人財の育成	多様で有為な人材の確保及び職員の成長を促す人材育成
	C	生涯学習	市民活動拠点施設として相応しい生涯学習センターのあり方検討	施設の老朽化、稼働率、本質的なあり方
財政・変革局	B	アセットマネジメント	公共施設の価値向上と未利用市有地の商品化・流動化を原動力とした街のアップデート	・公共施設の利便性や魅力、質の向上による、新たな価値の創出と資産価値の最大化 ・未利用市有地等の最適な売却・活用方法の検討による、まちづくり施策を包含した民間投資を呼び込むマネジメントの推進
		税務	政策立案能力強化のための税務データオープン化	・税務データを抽出・分析する手法の確立 ・事業の税収への影響の検証、税収増加につながる政策立案へ寄与

（参考）R8各局区X方針課題一覧③

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
保健福祉局	B	高齢者福祉	高齢者の健康寿命の延伸に向けた事業の再構築と取組の強化	・介護予防事業の再構築 ・高齢者の活躍推進
		障害者福祉	障害福祉サービスの質の向上と持続可能な制度運営の構築	・障害福祉サービス費の分析 ・障害福祉サービスの質の向上 ・相談機能の向上
		政策連携団体	北九州市福祉事業団（政策連携団体）の持続可能性の確保	・法人の自律的な運営の実行支援
	C	地域福祉	地域コミュニティと地域福祉が相互に連携した支え合いの仕組みづくり	・地域コミュニティビジョンを踏まえた、次期地域福祉計画の策定 ・地域コミュニティと地域福祉の取組の連携による地域の支え合いの基盤の更なる強化
子ども家庭局	A	局全体	デジタルツールの活用などによる事務の効率化と生産性の向上	(1)業務フローの見直し (2)デジタルツールの活用検討および導入
	C	保育	多様化する保育ニーズへの対応	(1)民間施設への支援強化等の方策を検討 (2)保育人材確保のあり方を検討 (3)直営保育所の整備手法などの検討
環境局	B	循環経済システムの構築	持続可能な社会の実現に必要なごみ処理体制のあり方の検討及び周辺自治体との連携について	(1)ごみ処理施設のあり方の検討 (2)周辺自治体との連携
		市民環境力の強化	市民の行動変容を生み出す施策構造への転換	(1)ギラヴァンツ北九州と連携したSPLの推進（環境×スポーツ） (2)ネイチャーポジティブ推進重点モデル地区事業 （環境×観光、まちづくり） (3)環境配慮型ライフスタイルへの転換に向けた広報啓発事業 （プラットホーム） (4)「北九州クリーンタウン」プロジェクト（まち美化） (5)局内横断の検討・実行体制の仕組化
産業経済局	A	人材育成	職員の育成	民間企業等と対等に渡り合うことができる職員の育成・活躍に向けて、局内研修の実施、職員育成に係る環境整備を行う。
	B	公共インフラ	中央卸売市場の再整備	中央卸売市場の老朽化対策及び機能強化と施設の規模の適正化について、場内事業者の合意形成を図りつつ、整備手法の検討を進める。
		産業振興未来戦略	北九州学術研究都市と北九州産業学術推進機構の機能強化	令和7年2月に策定した「G-CITY戦略」に基づき、FAISのあり方（事業手法、経営手法等）を含めて見直しを進める。

（参考）R8各局区X方針課題一覧④

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
都市ブランド創造局	B	文化	政策連携団体のあり方（芸術文化振興財団の体制強化）	中長期計画（組織変革プラン）の策定
	C	文化・観光・MICE・スポーツ	持続可能な施設のあり方	（1）利用者目線を踏まえ新たな施設分類の再定義 （2）ホール系施設への利用料金制導入等の検討 （3）ホール系施設のあり方検討 （4）民間活力導入に向けた具体的な検討 （5）JR小倉駅新幹線口のMICE施設のあり方検討 （西日本総合展示場、北九州国際会議場） （6）皿倉山ケーブルカー・スロープカーにおける移送手段及び民間活力導入等の検討 （7）公共施設マネジメント実行計画の見直しに伴うスポーツ施設のあり方検討
都市戦略局	B	都市交通	将来にわたる公共交通の維持・確保	（1）公共交通の再構築（リ・デザイン）
都市整備局	B	河川・公園事業	水と緑がつなぐ新たな価値化	（1）到津の森公園から始まる中央公園の新たな価値化 （2）勝山公園x紫川の認知度向上・価値化 （3）身近な公園の新たな価値化
		市営住宅事業	市営住宅ストックの有効活用	（1）市営住宅ストックの有効活用
港湾空港局	B	港湾	港の稼ぐ力の強化	（1）港の能力を最大化するための調査・検討・実施
		空港	空港の稼ぐ力の強化	（1）特急停車本数の増便に係る利用状況の分析・評価や国際線増便等に合わせた更なる利用促進及びエアポートバスの待合環境改善 （2）年間を通じた空港内でのイベント実施等による魅力の向上

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑤

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
門司区	A	市民サービス向上	市民に寄り添う窓口サービスの充実	・「おくやみコーナー」におけるワンストップサービスの本格運用を開始し、運用後も改善を図る。
		市民サービス向上	デジタル活用と業務改革による行政サービスの質の向上	・職員へのAI活用研修を通じて、DX化および業務改善を推進する。
		地域振興	地域の担い手の参画を促進する新たな仕組みづくりによるコミュニティ活性化	・ボランティア募集サイトを活用し、地域活動への参加のハードルを下げることで、若者の参画を促進する。
		地域振興	海と山が迫る地形的特性や高齢化に対応した地域主体の防災力の強化	・NPO、学生、企業等民間活力を利用した啓発活動を支援するとともに、地理的特性を視野に入れた防災対策を推進する。
	B	地域振興	若者、地域、民間の連携推進による関門エリア活性化	・若者と地域、企業等が連携した地域課題解決活動を支援する。
		地域振興	古民家等を活用した民間主体のエリアマネジメント	・古民家の活用・再生による滞在性・周遊性の向上を図る民間主体の「まちづくり会社」の設立に向けた伴走支援を行う。
	C	地域振興	地域と観光をつなぐ新たなモビリティの検討	・観光客と地域住民双方の利便性向上に向けた交通手段の実証実験を実施する。
		地域振興	地域の誇りを育む現門司区役所の活用方法の検討	・門司港地域複合公共施設への移転後の活用方法について、地域の意見を丁寧に聴取し担当部局と連携し検討を進める。

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑥

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
小倉北区	A	まちづくり	多様な人々が気軽に交流できる地域づくり	・令和7年度に実施した市民センターを活用した取組を拡充・横展開し、地域の学生等とも連携した新たな取組を行う。 ・市民センターでの取組が、より地域の人々に届くよう、市民センターの情報にアクセスしやすい環境を整える。 ・子どもや学生など未来を担う幅広い世代が地域に愛着を持ち、地域づくりに興味を持てる取組を新たに企画、実施する。
		区役所改革	市民サービス向上やまちづくりにつながる業務改革・環境改善	・令和7年度に行った庁舎点検等の取組を、外部関係者や利用者の視点を取り入れることで発展的に継続し、可能な範囲から、案内サイン等の改善に着手する。 ・令和7年度に引き続きDX・AI戦略室と連携し、現場レベルでのAI活用やDXを推進する。 ・若手職員の育成と課題解決を両立する取組として、「区役所業務トレード研修」や「MOUPプロジェクト」などのバージョンアップを図る。 ・旧態依然の事務処理や手続きを根本から見直し、区民の利便性と事務の効率化を図る。
		まちづくり	地域における外国人との共生	・国際交流協会と連携したセミナー等の開催や、外国人住民向けのきめ細かい生活関連情報の周知・啓発等の取組を実施する。 ・地域の中の多様な住民が交流できるようなモデル事業を試行する。
		観光大都市への進化	区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、並びに区の垣根を超えた周遊観光の促進	・令和7年度に実施した区の垣根を超えたイベント企画や、情報発信力の強化を目的とした研修等を継続するとともに、新たに区内公共施設等との連携事業を試行する。 ・商標登録中の区役所キャラクターを活用するなどし、区の魅力を発信していく。
	B	まちづくり	地域の実情に応じた地域づくりへのサポート	・令和7年度に全校区で実施したヒアリング等の結果を活かすとともに大学等の意向やカリキュラム等も踏まえ、大学等による既存の地域活動等を拡充・展開する方向で地域の支援策を研究し、より具体的な提案を行う。 ・市民センターを核とした継続的で発展的な地域支援のため、市民センター館長向けの研修を実施し、企画力等の向上を図る。
	C	区役所改革	小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプランづくり	・東棟3階で実施したレイアウト変更の取組を横展開し、特に現状の窓口レイアウト・執務環境に課題がある西棟1階（保健福祉課）の改善計画を作成し、可能な範囲から着手する。 ・大学ほか外部関係者と連携しつつ、利用者の視点を取り入れた案内サインの改善に向けた計画やガイドラインを策定し、一部、具体的な改善を図る。 ・一か所の区役所窓口で市民の相談が解決し、（たらいまわしや案内漏れがないように）区役所の窓口体制を再構築し、市民に適切な支援やサービスを提供する。

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑦

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
小倉南区	A	市民サービス	「親子ストレス・フリー」区役所への変革	・区役所の余剰スペースを活用し、親子連れの来庁者特有の「待ち時間」と「手続き中」の2つのフェーズでの余計なストレスをゼロへ
		地域コミュニティ	日常的な地域情報の把握と共有（校区担当の機能強化）	担当職員の日常的な ・地域訪問とコミュニケーションの深化 ・関係課間での情報共有・連携向上
	B	市民サービス	現役世代・子育て世代のニーズに合わせた柔軟な市民センターの運営	・モデル校区による市民センターのあり方検討（ヒアリングやアンケートの実施、日曜開館の検討など）
		地域コミュニティ	時代の変化や地域特性に応じた新たな持続可能な地域コミュニティの形成	地域コミュニティのリ・デザインに向けた ・多様な地域コミュニティとの情報交換（校区キャラバン、茶話会（仮）など） ・校区カルテ作成による地域人財の蓄積
		地域資源活用	地域資源の活用と人材育成	・区役所職員による地域へのダイブと地域資源の掘り起こしや磨き上げ
	C	市民サービス、地域コミュティ、地域資源活用	区役所の一歩先の価値観を体現する「未来型区役所」のデザイン	・企画・政策立案機能の強化（地域資源の活用） ・持続可能な新たな地域コミュニティの形成 ・将来の区役所の機能・レイアウトの設計
若松区	A	市民サービス	外国人にとってわかりやすい区役所づくり	・庁舎内の案内表示の多言語化 ・窓口における申請書類等の多言語化
		市民サービス・まちづくり	区役所庁舎の空きスペースの新しい活用のあり方	空きスペースを、従来の利用方法（会議室等事務利用）にとらわれず、新しい活用のあり方を検討
	B	まちづくり	持続可能な「地域ケア研究会」の取組	開催時間・頻度等の開催方法等の見直しを検討・実施
		まちづくり	市民センターの活性化	・地域ごとに課題解決に向けた実践的取組につながるよう関係者間の意見交換の実施、連携の促進 ・多世代の参加につながるイベントや地域間交流の促進につながる事業を実施
	C	まちづくり	若松北海岸の観光地化	・観光地化に必要な施設整備の推進 ・地元事業者によるにぎわいづくりの促進

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑧

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
八幡東区	A	感動区役所	地域の活力を高める情報発信	(1)機動的な情報発信の構築 (2)市民に刺さる情報発信 (3)「八幡東倶楽部🧡」の更なる充実、活性化
		人とつながる市民センター	みんなの市民センター	(1)だれもが行ってみたくなる市民センターとして、情報発信及び講座の充実
	B	感動区役所	区役所空間改善	(1)来庁者がまた来たくなるような感動空間の創出
		感動区役所	「皿倉・河内・東田」リトリート＆アクティブ・エリア化	(1)観光ルートの作成及び情報発信
		いきいき地域	新たな地域の担い手を創出	(1)学生同士の交流機会の確保 (2)学生と地域をつなぐ仕組みづくり
	C	いきいき地域	新たな地域の仕組みづくり	(1)大学生や高校生等若者とつくる未来型自治会プロジェクト
		人とつながる市民センター	市民センターの運営体制のあり方の検討・見直し	(1)総務市民局（地域振興課）と連携した現状の課題や問題点の共有化 (2)地域・人づくりコーディネーターによる地域の人材育成強化

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑨

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
八幡西区	A	地域社会	地域と仕掛ける再生のトリガー	・黒崎再生の原動力となる「クロサキスイッチ」を地域と共に展開
		市民サービス向上	やさしさとデジタルで整えるまちの窓口	・区民・職員の声とDX・AIで、誰もが利用しやすい区役所の「窓口環境」を整備
		市民サービス向上	まるごと楽しむコムシティのアップデート	・施設内セクターが連携した情報発信やイベントの実施 ・利用者が求める機能の拡充
		人材育成	挑戦をチカラにしなやかな人財デザイン	・プラチナ・ZPTで挑戦する職員を後押し ・多様な研修を通じた他業務への参画と職員が成長する機会の付与
	B	官民連携 地域社会	マッチングではぐくむ定着のサイクル	・企業×学生による、産業人材の確保と定着
		官民連携 地域社会	マッチングではぐくむ地域の担い手	・地域×企業、地域×学生による、地域コミュニティの活性化
		地域社会	見える化と共有で動かす地域のお困りごと	・地域課題を見える化・共有する「（仮称）八幡西区版地域カルテ」の構築による地域課題の解決

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑩

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
戸畑区	A	行政サービス	窓口業務の応援体制整備	・人を「応援要員」にする施策から、AIが職員一人ひとりを支える仕組みの　構築と試験運用
		行政サービス	市民に寄り添ったDX窓口	・支援窓口設置による市民サポート体制の構築 ・体験講座及び人材育成実施によるDX支援の強化
		行政サービス	認知症の人の権利と資産保全	・地域団体や関係部署等へ相談先周知や研修 ・金融機関、警察署との連携強化
		若い世代の居場所づくり	気軽にあつまり交流できる場としての区役所づくり	・若者の居場所情報の周知と利活用の検討
	B	多世代・地域交流の仕掛けづくり	「歩いて楽しいウォーカブルなまち」としての回遊性向上と賑わいの創出	・官民共同による賑わいづくりの実施 ・汐井町公園整備に向けた周知と設計等の実施
		地域コミュニティ	持続可能で自律した地域コミュニティの構築	・「地域担当者制」による各地域の課題収集と横展開 ・市民センターでの“推したくなる”講座の企画と情報発信 ・防災訓練を活用した多世代交流
	C	まちづくり	「文教のまち」として選ばれるまちづくり	・「文教のまち」としてのポテンシャル調査 ・関係者との意見交換等を実施
消防局	A	救急	増加する救急需要の対策	(1)消防力の最適化による救急体制強化の検討
		人材確保／地域防災	大学連携による消防団員の入団促進	(1)大学と連携した地域課題解決プロジェクト
		人材組織／組織運営	若手職員の育成と柔軟な発想の活用	(1)「消防未来創造プロジェクトチーム」の運営
	C	消防体制整備	持続可能な消防体制の構築	(1)持続可能な消防体制の構築に向けた局内検討の推進

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑪

【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
上下水道局	A	上下水道	給排水工事申請の効率化	(1)DXを活用した時間、場所に制約されない給排水工事申請の実現
	B	上下水道	株式会社北九州ウォーターサービスとの連携強化	(1)政策連携団体への更なる委託範囲拡大の検討等
	C	上下水道	将来にわたる上下水道事業の健全経営やサービス水準維持の実現(経営環境の変化への対応)	(1)持続可能な上下水道事業の構築の検討(ウォーターPPPや包括委託などの導入検討) (2)施設の最適化に関する検討(ダウンサイジングの検討)
交通局	A	局全体	人事・給与関係業務等の標準化・DX化	(1)属人的要素の強い業務の標準化・一般化 (2)給与関係業務等のDX化
	B	事業経営	持続可能な交通事業の構築	(1)利用者が少ないが、「生活の足」として必要な路線の効率化
	C	事業経営	貸切バスの営業拠点の拡大	(1)新たな拠点となるエリアの調査及び検討
		局全体	施設・車両の老朽化対応	(1)収支均衡(黒字化)に向けた経営改善 (2)車両の更新手法の検討 (3)財政基盤を整える枠踏みの協議
公営競技局	A	公営競技	売上向上による市財政への貢献	・ミッドナイトボートレースの開催日数及び開催時間の拡大 ・防風対策の実施
		公営競技	ファンや地域に愛されるレース場づくり	・レース以外でも楽しめるレース場づくり ・魅力あるボートレース場の整備 ・北九州メディアドームの大規模改修 ・公営競技普及に向けた取組み ・公営競技の公益性のPR

（参考）R8各局区X方針課題一覧⑫

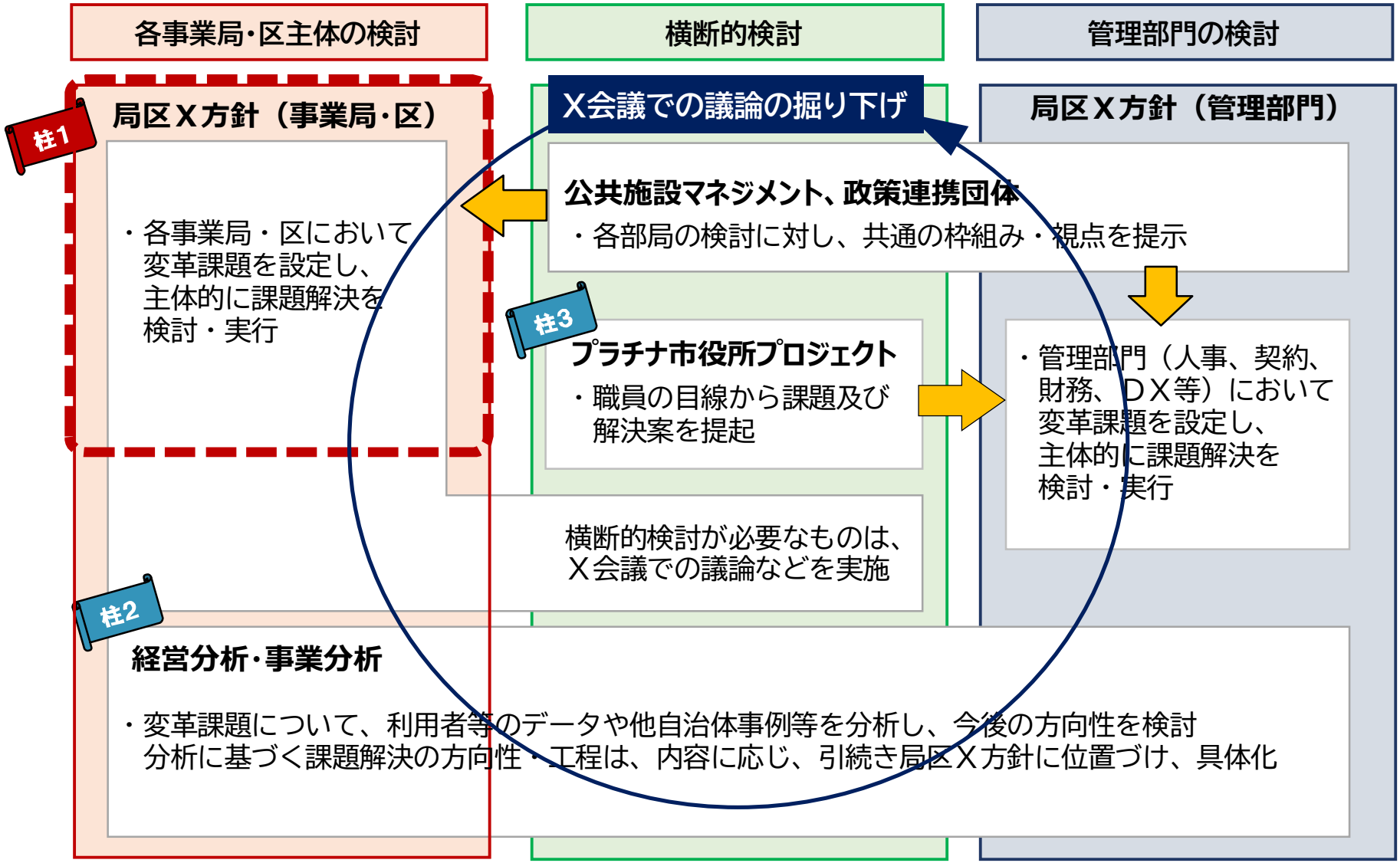
【凡例】〇課題領域
A ・行政サービス現場改善にかかる課題
B ・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

局区名	課題領域	政策分野	課題名	課題に対する取り組み
教育委員会	A	教育環境（ソフト）	教職の魅力発信	（1）せんせいスタートプロジェクト 教職員の出身高校に出向き、教職の魅力やキャリアプラン等、対話的な活動を通し、教員免許が取得可能な大学への進学を促す。 （2）kitaQみらい塾 大学に出向き、出前講座にて対話やグループワークを通し、教職の魅力を伝える。また、「先生が安心して働ける北九州市」を広く発信する。
		教育環境（ソフト）	AI型学習アプリの導入による「個別最適な学び」の推進	（1）「北九州市AI型学習アプリ活用アクションプラン」の作成・普及と、学校への伴走型支援の実施。AI型学習アプリの活用効果検証を行う。
		教育環境（ソフト）	子ども読書活動の推進	（1）「学校まるごと図書館」の推進 「学校全体が図書館」と捉え、学校生活において、自然に本と出会える環境づくりを行う。 （2）子ども図書館での体験型イベントの展開 「エンタメ要素」を最大限に盛り込んだ体験型イベントを展開し、図書館を「子ども・多世代エンターテインメント拠点」として機能させる。
	B	教育環境（ソフト・ハード）	地域クラブ活動の推進	（1）地域クラブ活動の推進に向けた取組の進化 教育委員会内にPTを設置するとともに、関係者から意見を得る機会を拡充する等により、地域クラブ活動を一層広げていく上での課題を整理し、個々の取組をアップデートする。
		教育環境（ソフト・ハード）	持続的な給食提供体制のあり方	（1）現状分析を踏まえた給食提供体制の検討 北九州市の給食提供の現状（情報）や、他自治体の提供体制を踏まえ、今後の給食提供体制について様々な方策を検討、論点を整理する。
	C	局全体	新たな時代の教育デザイン	（1）市立小中学校における実践例や他都市事例の収集・分析を行う。また、学校・保護者・地域はもとより、高校・高専・大学・産業界などの関係者とも幅広く意見交換を行うことで、小中一貫校の整備及び新たな教育モデルについて、方向性を具体化する。
行政委員会事務局	A	人事	将来の市政を担う優秀な人材の確保	・採用試験の見直しに向けた調査・検討 ・リクルート活動
		選挙	若者世代の投票率の向上	・若者の投票参加促進のための取組

（参考）令和8年度市政変革全体における『局区X方針』の位置づけ

第１回X会議資料（別紙６）より

・局区Ｘ方針は、令和８年度の市政変革の主たる３つの取組み（３本柱）の１つ。
・昨年度の検討・議論を踏まえた本質的な変革課題の設定を重視・徹底。



（参考）『局区X方針』の概要（課題領域）

第１回Ｘ会議資料（別紙６）より

Ｘ方針の課題領域（Ａ・Ｂ・Ｃレベル）

課題領域 Cレベル	課題領域 Bレベル	課題領域 Aレベル
・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題	・課題の掘り起こしが済み、変革案が具体化しつつあるもの（途上のもの） ・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの	・行政サービス現場改善にかかる課題

◆「3分類の課題」との相関



部局の枠を超えないと、掘り下げるべき課題の見定めや解決策が見出しにくい課題。
組織横断的な検討や外部（民間等）の協力を必須とするもの。
【対応する課題領域】B/C

現状のやり方ではうまくいかない状態に対し、転換やトランスフォームを目指す課題。
担当部局が主となって解いていくことが可能なもの。
【対応する課題領域】B/C

解決の方向性や具体的内容が決まっており、実行中（実行予定）にある課題。（例えば、予算要求段階も含む）
または、既存プロセスを前提に日々の「やり切る」改善活動。
【対応する課題領域】A

👉 3分類のどの課題に該当するか仕分けることで、B・Cレベルとして設定すべき課題か、より明確になる